

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 2月 28日

配布数 6

回収数 6

事業所名 アートチャイルドケアSEDスクール京都西院

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答	割合（％）				工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
						はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・相談室がマジックミラーになり、セッションできるスペースが増えている。 ・セッション利用枠を2人に入れているので指導室、観察室共にスペースが確保されやすい。 ・個室も利用し、「静」と「動」で区別して取り組んでいる。	
	2 職員の配置数は適切であるか	2	1	3	0	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	・職員が少ない時には他スクールからヘルプの職員が来て下さっている。 ・利用者数に対して指導員がぎりぎりの状態の時もあり、急な指導員の休み等もなんとか対応できる状態だった。 ・色々なスクールからヘルプに来てもらっているの、もう少し人が増えて欲しい。 ・安定した療育提供と職員の長期雇用に向けて業務改善等を行っているが、まだまだ配置数が充分とは言えない。	・1スクールの人員規定増加を本部承認してもらっているが、十分な人材確保には至っていないのは、それだけの責務と求められるニーズの高さに応えるべく人材選定をしているからでもあるが、今後は長期的な人材育成に重きを置いていく仕組みと時間と構造化が急務である。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・玄関から飛び出し防止のためプランターを置いて工夫をしている。 ・指導室までの動線上に大きな障害物（段差など）がなく、廊下、ホールも広く幅がとれていると思う。 ・排水溝を踏ってしまう予備が、バツ印をつけたことで分かりやすくなった。 ・掲示板等で周知している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・棚の中など見える位置には物など置いておらず、集中しやすく活動に合わせて変化する。 ・どうしても落とせない汚れはある。 ・毎日の清掃やセッションの入れ替わりの時に心がけています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・毎日検討事項を話し合ったり、ヒヤハットを共有したりする時間があり改善につながっている。 ・ミーティング内での問題提起や今業務として難しくなっているのではないかとと思われる問題に対して、意見を聞いてもらえている。 ・検討が必要なことは全員で行っている。 ・毎日のカンファレンスの中で行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・アンケートも全保護者から意見がもらえるよう努めており、意見等の把握をし改善につなげていると思う。 ・前回の評価を踏まえ、目につくにくい場所の清掃を行うようになった。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・事業所アンケートをスクール内にも掲示しており、内容が保護者の方にも把握してもらえるようになっている。 ・掲示されている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・会社既定の研修だけでなく、スクール内独自の研修、外部研修の参加など資質向上を目指して実施している。 ・他スクールへの研修、スクール内研修が実施された。また毎日の振り返りでの検討事項の話し合いも資質向上につながっている。 ・必要な研修や勉強会などの機会を作ってもらえている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・ことばの発達に関するアセスメント表を新たに導入し、客観的に分析しやすくなった。また園と連携することで集団での姿からのアセスメントも行っている。 ・主観にならないよう客観的な視点をふまえてチェックしてもらおう等し、漏りのない計画を作成していると思う。 ・カンファレンス等でスタッフ間で話し合いをしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・必要に合わせたアセスメントツールを使用し、状況把握に努めている。 ・言語面、小さい子へのアセスメントツールが増えた。 ・アセスメントシートを活用している。	
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・ガイドラインの示す支援内容から外れることなく、子どもに必要な項目を適宜選択し、具体的な支援内容を設定していると思う。	
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・支援計画の目標が具体的な支援内容に合わせて月目標を立て、そこに向けて必要な支援を提供していると思う。	
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1	0	0	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	・現在のねらいや変化などプログラムに必要な情報を話し合ったりする中で、プログラムに反映したりしている。 ・継続する必要があることは伝達し合っている。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・活動の変化をつけにくい子どもに対しては少しずつねらいや必要な部分のみつけ、固定化にならないよう意識している。 ・同じことをする際も補助の仕方を変えている。	
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・共同プログラムも必要に応じて組み合わせている。 ・状況に応じて共同プログラムにし、他児とかわる場面をつくるなど必要に合わせて計画にも取り入れて作成している。	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・必要に応じて同じセッション枠の職員や自由遊びの職員、グループに入る指導員同士で打合せができています。 ・セッションに入る前など互いの意図や注意点があれば打合せをして安全かつ適切な支援につながるよう配慮している。 ・直前になることもあるがやっている。	
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5	0	1	0	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	・改善点だけでなく、子どもや職員のがんばりやまらりと輝く姿も共有することで、良さを生かしていく療育をしやすくなっている。 ・振り返りの時間を用いてその日の共有事項や情報をスタッフ全員が共有できるようにしている。 ・共有や検討が必要な場合に行っている。次回担当する職員に伝達している。	
18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・時系列でなく「ことば」「からだ」など項目ごとに記録をつけることで支援の方向性を決めたり改善したりしやすくなった。 ・記録に合わせて変化を逃さない情報収集や改善につなげていると思う。		
19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しを判断しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・保護者へのモニタリングを実施し、保護者のニーズや思いを定期的に知る中で計画の見直しを行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・必要時は参加ししり情報を得たりなどはされている。	
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・適宜連携を行ったり電話などでの共有を図っている。	
	22	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚園）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・園への訪問、園の先生のスクール見学、電話での情報共有などを行っている。 ・見学や訪問などで情報共有や連携を図っている。 ・積極的にやっている。	
	23	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・移行支援シートの案内、見本を観察室に設置し、希望者にはスクールからの記入も出来るようにしている。 ・就学前に必要な移行支援シートなどを用いて情報共有できるようにしている。	
	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	1	1	0	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	・うさぎ園の研修を受講、グループ療育に活かしている。 ・必要な研修などあれば参加できると思うが、他事業所や専門機関との連携は乏しいかもしれない。 ・機会がなかった。検査結果を持参されたり、保護者経由でお話を伺うことはある。 ・研修に行った指導員より報告を受け、研修をしてもらった。	・通常の療育提供時間等の外部研修の参加は、人員体制が十分確保されていない場合は中々参加を積極的に行うことができなかったもので、まずは人材確保と長期雇用に向けて対応していく。
	25	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	4	1	1	0	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	・全員でないが、代表で参加して下さっている。その情報をミーティング等で共有している。 ・機会をもてなかった。 ・機会があれば参加しようと思う。	・当施設のご利用は、京都市内でかつセルフプランでのご利用となっており、障害児支援事業所のサービス担当者会議に参加することはないが、依頼や案内があれば可能な限り参加していく。
26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5	1	0	0	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	・振り返りで状況を伝え合っているが、共通理解を完全にできているかという不十分な部分がある。		
保護者への説明責任等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・入所時や説明が必要とき、保護者からの質問時など適宜説明をえている。	
	28	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・作成された支援内容の説明を行い内容の把握をして頂き同意を得ている。	
	29	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5	1	0	0	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	・必要時に合わせて相談支援などを行っているが、保護者へ求めている回答や助言、支援をすぐに行っていない時もある。 ・必要ときは職員間で使っているアセスメントツールを共有し、客観性をもたせた。	
	30	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・振り返り以外に相談の時間が取れることについて、成長確認シートの記述で毎回確認し、希望も伺うことができている。 ・保護者からの相談の申入れがあった場合は迅速に対応し時間を設けたりしている。	
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・コードモンの積極的な利用により、必要な情報を簡易しやすくなった。 ・スクール内の掲示などで情報をいつでも見れるようにしている。 ・コードモンを活用して行っている。	
	32	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・個人情報保護の研修の際、不安な場面を共有し改善策を話し合い、実施することができている。 ・配布物やコードモンの送信時はダブルチェックを行う。 ・研修での個人情報取扱いの注意を学んだりスタッフ同士で話し合う。 ・窓を開放している時はより慎重に行っている。	
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・分かりやすい掲示やたくさん情報を出しすぎないなど、配慮しながら伝わる手段や方法を選択している。	
非常時等の対応	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・子ども、保護者の参加の訓練をグループで行い、より実際の状況に近い形での訓練を行った。 ・職員はもちろんのこと、グループで避難訓練をしたり、保護者にもそういった場合に知らしてもらえないといけない情報を確認してもらい周知に努めている。 ・毎年の研修を受けて行っている。	
	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・実際の想定や訓練をして気づく発見などを、各自が意識し訓練に取り組んでいる。	
	36	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・子どもの状況が知れるように表になっていたり、特に注意が必要な情報はよく確認する月目標に載せたりしている。	
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・毎回振り返りでヒヤリハットの報告と記録を残し、スタッフ全員が共有し意識できるようにしている。	
38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	0	0	0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・スクール内で勉強会をしたり、毎月虐待チェックシートの内容を確認し、どういったことがサインとしてあるのかを意識する機会がある。		